



ラボ番号:
患者名:
ID:
性別:
年齢:

クライアント: 30131
医師名:
Detox Co., Ltd.
2-6-6 Numabukuro Nakano-Ku
Tokyo, 165-0025 JAPAN

Comprehensive Stool Analysis

細菌培養の結果

良性細菌叢	境界性細菌叢	悪性細菌叢
4+ Bacteroides fragilis group	2+ Alpha hemolytic strep	3+ Citrobacter braakii
3+ Bifidobacterium spp.	3+ Gamma hemolytic strep	3+ Citrobacter freundii
NG Escherichia coli	1+ Proteus vulgaris group	3+ Enterobacter cloacae
2+ Lactobacillus spp.	1+ Raoultella ornithinolytica	3+ Klebsiella pneumoniae ssp pneumoniae
2+ Enterococcus spp.		
NG Clostridium spp.		
NG = No Growth		

細菌学的な情報

Expected (Beneficial) bacteria (良性細菌):健康的で均衡のとれた消化管では、良性細菌は総細菌叢の無視できない一角を占めます。これらの良性細菌群には、ビタミン製造、食物繊維の発酵、タンパク質と炭水化物の消化、そして抗腫瘍因子や抗炎症因子の伝播を含む消化管内の健康防御作用があります。

クロストリジウム属は健康的な胃腸に普通に存在する細菌叢を構成します。クロストリジウム菌は、その他の良性細菌とのバランスで考えられなければなりません。クロストリジウム菌類が存在しなかったり、その他の良性細菌叢の構成細菌が多量にありすぎたりすると、細菌の不均衡が起きます。もしクロストリジウムデフィシル菌の疾患が疑われるのならば、**A&B 毒素検査**が推奨されます。もし完全にクロストリジウム属のどれであるかを特定することが推奨されるのならば、包括的なクロストリジウム菌培養

(Comprehensive Clostridium Culture)を勧めます。

Commensal (Imbalanced) bacteria (境界性細菌)は通常は宿主の消化管に対して病原性であるか或は恩恵を与えてくれるかのどちらかです。良性細菌の濃度が不十分で、境界性細菌濃度が増加した時、不均衡が起きます。境界性細菌の中には高濃度で悪性を示す物が報告されています。

Dysbiotic bacteria (悪性細菌)はよく知られた病原性細菌からなり、消化管で疾病を引き起こす能力を持っています。汚染された水や食品を消費したり、良性細菌にとって毒性のある化学物質に暴露する;抗生物質の使用、経口避妊薬やその他の薬剤の使用;食物繊維の摂取量が少なかったり、高ストレス下にさらされる;などを含む様々な要因によってこれら悪性細菌が存在することがあります。

イーストの培養

Normal flora (通常真菌叢)

1+ Candida lusitanae

Dysbiotic flora (悪性真菌叢)

2+ Candida albicans

顕微鏡検査によるイースト

判定結果: Rare 理想値: None - Rare

便中イーストの顕微鏡検査は、イーストの増殖を確認するのに役に立つ検査です。**Rare**判定は、正常ですが、**few, moderate,** 或は **many**は異常です。

イースト情報

Yeast (イースト)は通常は少量皮膚、口腔、腸、そして皮膚粘膜接合部に見いだされます。イーストの過成長によって理論的にはすべての組織臓器に感染可能です。そして感染すると様々な臨床兆候が見られます。真菌性下痢は、広範囲の抗生物質使用或は患者の免疫状態の広範囲な変性と関係してきます。そしてその症状には腹痛、筋けいれん、そして刺激過敏が含まれます。イーストの存在を調べるとき、培養と顕微鏡検査での結果とは不一致があるかもしれません。イーストは便中に一様に分散している訳では無いからです。このことによって顕微鏡では検出できなかったりごく微量であったりしたのが培養では十分な量のイーストが検出されることがあります。逆に、顕微鏡検査では相当量のイーストが存在するにもかかわらず、全く培養されないこともあります。イーストは消化管を通過する際必ずしも生存して通過する訳ではないので検出されないこともあります。

コメント:

検体採取日:
検体受託日:
検査完了日:

v5.09



ラボ番号:
患者名:
ID:
性別:
年齢:

クライアント: 30131
医師名:
Detox Co., Ltd.
2-6-6 Numabukuro Nakano-Ku
Tokyo, 165-0025 JAPAN

Comprehensive Stool Analysis

消化/吸収

	Within	Outside	Reference Range	
Elastase	484		> 200 µg/mL	<p>Elastase(エラスターゼ)検査は、膵臓外分泌不全の診断と除外に用いることができます。低濃度の時慢性膵炎や癌との相関が報告されています。Fat Stain: (脂肪染色)ズダンIV染色を用いた便中脂肪の顕微鏡を用いた検出は脂肪吸収の程度を評価するのと脂肪便の検出に定性的に用いられています。Mucslc fibers (筋繊維):便中の筋繊維の量は不完全消化の指標です。腫脹、鼓腸、膨満感、筋繊維の増加と関係しています。Vegetable fibers (食物繊維):便中の食物繊維の量は、不適切な咀嚼、早食いの指標となります。Carbohydrates(炭水化物):便検体中の還元物質の存在によって、炭水化物の吸収不良が指摘できます。</p>
Fat Stain	None		None - Mod	
Muscle fibers	None		None - Rare	
Vegetable fibers	Rare		None - Few	
Carbohydrates		Int	Neg	

炎症

	Within	Outside	Reference Range	
Lysozyme*		852	<= 600 ng/mL	<p>Lysozyme*(リゾチーム)は、消化管の炎症部位で分泌される酵素です。そして濃度上昇がIBDの患者の確認になります。Lactoferrin (ラクトフェリン)は、IBDとIBSを鑑別するのに用いられる消化管に特異的な定量マーカーで、IBDの炎症が活性化しているときと寛解期のモニターに用いられます。White Blood Cells (WBC) (白血球): 便には、腸管腔に白血球が浸潤した炎症反応の痕跡があります。WBCは便中で粘液と血液がしばしば伴うことがあります。Mucus (粘液)粘膜刺激時間が延長したり、けいれん性便秘や粘液性大腸炎などのような副交感神経の興奮の結果、便中に粘液が析出します。</p>
Lactoferrin	0.6		< 7.3 µg/mL	
White Blood Cells	None		None - Rare	
Mucus	Neg		Neg	

免疫

	Within	Outside	Reference Range	
Secretory IgA*	171		51 - 204mg/dL	<p>Secretory IgA* (sIgA) (分泌性 IgA)は粘膜組織から分泌されて、消化管粘膜防御の第一線を形成し、免疫障壁としての消化管機能の中心です。sIgA濃度の上昇は、免疫反応の亢進と関係があります。</p>

コメント:
検体採取日:
検体受託日:
検査完了日:

*For Research Use Only. Not for use in diagnostic procedures.



ラボ番号:
患者名:
ID:
性別:
年齢:

クライアント: 30131
医師名:
Detox Co., Ltd.
2-6-6 Numabukuro Nakano-Ku
Tokyo, 165-0025 JAPAN

Comprehensive Stool Analysis

短鎖脂肪酸

	Within	Outside	Reference Range	
% Acetate	65		36 - 74 %	<p>Short chain fatty acids (SCFAs) (短鎖脂肪酸): SCFA は胃腸の良性細菌叢による食物繊維の発酵過程の最終産物です。そして、消化管の健康に重要な役割を演じ、腸のディスバイオーシスを予防しています。乳酸菌とビフィズス菌は、大量の短鎖脂肪酸を生産します。その結果腸の pH が低下し、それゆえ腸内環境が細菌や酵母を含む病原体に不適合になります。研究によると SCFA には胃腸の生理的機能を維持する多くの役割があります。それは、SCFA によって炎症が減少し、治癒を刺激し、通常細胞の代謝と分化に貢献します。</p> <p>mg/mL での Butyrate(酪酸)と Total SCFA(総 SCFA)濃度は、SCFA 生産全体を評価するのに重要です。そしてそれらは良性細菌叢濃度と或は食物繊維摂取量の反映であります。</p>
% Propionate	25		9 - 32 %	
% Butyrate	9.3		9 - 39 %	
% Valerate		0.3	1 - 8 %	
Butyrate		0.58	0.8 - 3.8 mg/mL	
Total SCFA	6.2		4 - 14 mg/mL	

腸の健康マーカー

	Within	Outside	Reference Range	
Red Blood Cells	None		None - Rare	<p>Red Blood Cells (RBC) :便中の赤血球(RBC)の量は、寄生虫や細菌感染か潰瘍性大腸炎のような炎症性大腸症状と関係しています。但し大腸直腸癌、痔瘻、痔は除外診断がなされなければなりません。Occult blood(不顕性出血)陽性だと、便中に自由ヘモグロビンが検出されます。それは赤血球が溶解したときに放出された物です。pH: 便中 pH は胃腸の良性細菌叢による食物繊維の発酵に大きくは依存しています。Yeast: 顕微鏡で酵母陽性とは、便中にカンジダアルビカンスのような真菌の存在することです。</p>
pH	6.1		6 - 7.8	
Occult Blood	Neg		Neg	

肉眼検証

	Appearance	Expected	
Color	Brown	Brown	<p>Color(色): 肝臓から消化器系へ流入した胆汁に作用して細菌が顆粒を形成するので便の色は通常は茶色です。ある種の条件が便の色の変化の原因になることがあるとしても、多くの変化は無害で食物や毎日のサプリメントによる顆粒によってなされます。Consistency (堅さ): 便は通常およそ 75%の水分を含んでいます。そして柔らかく形の整ったのが理想的なのです。便の硬さは消化管内の滞留時間や水分吸収量によって変化することがあります。</p>
Consistency	Soft	Formed/Soft	